

「子どもの歯が抜けたら・・・」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私が子どもの時は、上顎の歯が抜けたら縁の下に、下顎の歯が抜けたら屋根に投げる・・・と祖母に教わった。そうすると、丈夫な大人の歯(永久歯)が生えてくるというので、全部の歯を投げたものだ。もちろん科学的な根拠はなく、昔からの言い伝え・・・一種の「おまじない」のようなものである。



「歯が抜け替わる頃の子ども」 右(ちひろ・6歳)は前歯(左上顎乳中切歯)が抜けている。左(ゆうこ・5歳)は、まだ全部乳歯が揃っている。昭和45年。

授業をしても、突然「先生、歯が抜けました！」という声があがることがある。1年生や2年生は前歯(切歯)、上の学年になるにつれて、奥歯(臼歯)が抜けることが多くなる。わざわざ理科準備室まで見せに来る子もいる。いずれも抜けたのは、子どもの歯(乳歯)なので、特に心配はない。

子どもたちが、抜けた歯をどうするか見ていると、意外にも大切そうに、筆箱やポケットにしまっている。家に持ち帰るつもりだろうが、そのままでは汚れてしまう。最悪、掃除の時間に、床に歯が落ちていることもある。私は、少しは理科の教師らしいことをしてやろうと、歯が抜けたという申し出があった場合には、ちょっとした工夫をしている。



このようなカードに、歯の位置・名称・日時を記入して、抜けた歯と一緒に、小さなチャック付きポリ袋に入れて持たせるのだ。2年生の子ども(7歳)に、これを持たせたら、翌日さっそくお手紙をくれた。

「きのうは、はをふくろにいれて、カードもくれて、ありがとうございます。わたしは、はにぜんぶなまえがあるなんて、知りませんでした。前はおくばしか、しりませんでした。でも、きのうぬけたはは、右上がくにゆうそく切しっていう、長いなまえとわかって、びっくりしました。おかあさんに見せたら、「よかったわね、大せつにしようね。」と言っていました。また、つぎのはがぬけたら、なまえをおしえてください。

この子は、少し前まで自分の体の一部だった乳歯に、意外なほど興味を持ったようだ。ちょっとした工夫で、抜けた歯も、子どもにとっては宝物になるのだ。